

登録コード	E4611900	開講年度	2026				
授業科目	地理歴史教育指導法					担当教員	篠崎 正典
英文授業名	Teaching Method of Geography and History Education					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・1時限	対象学生	
講義室	教育N101講義室	授業形態	講義	遠隔授業科目		備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	1. 中等社会科の意義と歴史について理解できること。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	2. 地理歴史科のカリキュラムと授業作りの方法について理解できること。 3. 年間指導計画と単元指導案を作れるようになること。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	社会科教育は子どもの社会認識を育てることによって、市民としての資質（公民的資質）を育てることを目標とする教科である。地理歴史科は高等学校における地理的認識・歴史的認識の育成を担う役割を持っている。本授業では、地理歴史科の目標、内容、歴史と実践の動向、評価、授業づくりの方法について、具体的な事例に基づいて学ぶ。同時に、模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点の習得を目指す。						
(5)授業計画	第 1 回：ガイダンスー地理歴史科の動向と教師の役割ー 第 2 回：地理歴史科の経験の再考ー地理歴史科の歩みにおける位置と特色ー 第 3 回：地理歴史科の成立と課題 第 4 回：地理歴史科のカリキュラム 第 5 回：地理歴史科における歴史教育の目的 第 6 回：地理歴史科における地理教育の目的 第 7 回：地理歴史科における教材研究の方法 1ー世界史・日本史の教材研究と情報機器の活用ー 第 8 回：地理歴史科における教材研究の方法 2ー地理の教材研究と情報機器の活用ー 第 9 回：地理歴史科の学習指導と評価ー学習指導案の作成ー 第10回：地理歴史科の内容と方法 1ー歴史総合、地理総合ー 第11回：地理歴史科の内容と方法 2ー世界史探究ー 第12回：地理歴史科の内容と方法 3ー日本史探究ー 第13回：地理歴史科の内容と方法 4ー地理探究ー 第14回：まとめー世界史探究、日本史探究、地理探究の模擬授業と検討ー（授業アンケート） ※教育実習等による欠席者への補講は、適宜レポート課題の提出により実施する。						
(6)成績評価の方法	・ 地理歴史科の意義、歴史、授業づくりの理解を測る小レポート(20%)、地理歴史科の授業実践力を測る模擬授業（20%）、毎回の授業内容の理解を測るポートフォリオ（20%）、地理歴史科の授業づくりの内容と方法の理解を総合的に測定する最終レポート（40%）、によって評価する。 ・ 14回の授業内容を踏まえたオリジナルの単元指導案の作成を最終レポートとする。 ・ 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	・ 模擬授業及び最終レポート（単元指導案）の評価規準は次の通りである。（i）テーマの設定が適切である。（ii）テーマに沿った教材研究ができている。（iii）指定された形式に沿って指導案が作成されている、（iv）適切な単元構成ができている。（v）現場で実践可能である。 ・ 授業内容を踏まえ、（i）から（v）までの項目を満たし、オリジナリティがあれば「卓越している」。（i）から（v）までの5項目が満たされていれば「かなり上にある」、4項目を満たしていれば「やや上にある」、3項目を満たしていれば「その水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	・ 第1回で、小レポート「地理歴史科の経験」のワークシートを配布する。第2回までに作成・持参し、第2回のグループ討議の材料とする。 ・ 第3回から9回で配付した資料は、第10回までによく読んで理解しておくこと。 ・ テキスト（学習指導要領解説）は随時使用するので、よく読んでおくこと。 ・ 第7、8回の内容を踏まえ、第9回までに小レポート「地理歴史科素材研究」を作成・持参する。 ・ 第14回は、前半で模擬授業と検討を行い、その内容を踏まえて講義を展開する。グループごとに準備を進めておくこと。 ・ この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	・ 社会科の指導法科目（初等社会科指導法基礎、中等社会科指導法基礎、地理歴史教育指導法、公民教育指導法のいずれか）を履修した後に受講すること。 ・ 授業開始前には、eALPSにアップロードされた資料や前時に配布した資料を通して予習を行うこと。 ・ 出席は各自の出席票（ポートフォリオ）に授業内で示す課題について記入することでカウントする。授業中に自分の出席票を受け取り、記入後、授業終了時に提出する。ポートフォリオとして評価材料に使用する。 ・ グループワークを中心とする授業のため、積極的な参加が求められる。						

(10)質問，相談への対応及び連絡先	研究室、随時、mshino@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』東洋館出版、2019年。
【参考文献】	・日本社会科教育学会編『社会科教育事典（第3版）』ぎょうせい、2024年 ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版、2017年。 ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版、2017年。 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版、2017年。 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版、2017年。 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版、2019年。 ・中学校・高等学校で使用した教科書、資料集、地図帳、参考書。